

頭の体操

野瀬 隆平

「乃木東郷 世評良好だ 流行地 ……」

何の脈絡もないこの文字列。何だかお分かりですか。そうです。モールス信号の覚え方を表わしたものです。

乃木東郷は、ノギトーゴーで、・・— —

世評良好だは、セヒョーリョーコーダで、・— — —・

自分の名前を、モールス信号で打つ場合このように始まる。

今でもイロハ順にモールス信号の覚え方が口をついて出てくる。習った覚えはないのに、どうしてだろう。多分、戦争中に兄や姉が唱えていたのを聴いているうちに覚えてしまったのだろう。

覚え方で、一度聴いたら忘れないようなものもあります。へです。これは屁で、・(トン)。面白いものに、アがあります。あ—言うとこ—言う。では、「ん」で始まる言葉のないんは？「旨め—旨め—な」と覚える。成るほど、うまいな—。

そんなことを思い出している内に、一つの疑問がわいてきた。これらの文言は、あくまでも覚え方だ。では、イロハ……の文字にどの記号をあてるかは、どの様に決めたのか。イには伊藤がふさわしいということで決まった筈はない。

考えられる一つの方法は、すでにあった英文のアルファベットの記号を、A から順番にイロハに流用することだ。早速、両者を対応させて見ると、見事的中。ほぼ、一致した。

ほぼと言ったのは、ところどころ歯抜けになっているからだ。イはAと同じ、けれども口に該当する英文字が無い。ハはB、ニはC、ホはDに、へはEと一致するのに、どうして、口に対応するところが抜けているのだろうか。

イロハは48文字あるのに、アルファベットは26文字しかないので、当然ほかの記号を使うしかない。そこで口の記号である路上歩行、トンツートンツ—と同じ記号が26文字以外のところはないか探したら、あった。Aウムラウトである。同じように抜けているところに、ドイツ語やフランス語で使う文字がうまく当てられていることを発見した。

こんなことを考えるのも、多少はボケ防止の頭の体操にはなるだろうか。